



新田 孝 プロデュース・指揮

東京芸術大学音楽学部卒業。東京交響楽団(音楽監督:秋山和慶)及び新日本フィル(音楽監督:小澤征爾)の第一ホルン奏者として在籍中より、指揮法を小澤征爾、秋山和慶、小林研一郎等に学び、ベルリン芸術大学、ケルン音楽大学にて研鑽。在独中にはベルリン・フィル芸術監督カラヤン、バーム、サバリッシュ、シュタイン等に薫陶を受ける。帰国後指揮者として独立。東京フィル(旧新星日響)、東京シティフィル、東京ニューシティ管弦楽団、神奈川フィル等に客演しながら経験を重ねる。その間、ライナー・ホーネック(ウィーン・フィルコンサートマスター)、海野義雄(Vn)等及びオペラ歌手菅英三子(Sop)、佐藤美枝子(Sop)、澤畑恵美(Sop)、山下牧子(Alt)、福井敬(Ten)等ヴィルトゥオーゾと共演。自ら主宰するオーケストラNIPPON SYMPHONY(芸大・桐朋・名門音大出身の精鋭)によるNIPPON SYMPHONY CONCERTシリーズ及び総合プロデューズ中野雄とのWORLD PEACE CLASSIC CONCERT ~華麗なる協奏曲の祭典~シリーズ(東京芸術劇場、東京文化会館、サントリーホール等)は、今井信子(Va)、岡本誠司(Vn)、H・ミュラー(Vaウィーン響首席)、A・スコッチ(Vcウィーン・フィル元首席)、深沢亮子(Pf)等世界的ソリストをはじめ、中恵菜(Va元新日フィル首席)、安達真理(Va日本フィル首席)、高木凜々子等今をときめくソリストと共演を重ねる。尚2025年12月には美・技・魂のヴァイオリニストとして高名な寺下真理子と東京21世紀管弦楽団(東京芸術劇場)名曲コンサートにて共演予定。NIPPON SYMPHONY代表 芸術監督・常任指揮者等。座右の書/亀井勝一郎:大和古寺風物誌、愛の無常について、鴨長明:方丈記、T・A・ケンピス:キリストにいらして、モンテーニュ:随想録、ロマン・ローラン:ペートル・ヴェンの生涯、神谷美恵子訳:ハリール・ジブラーン:の詩等。



福川伸陽 ホルン

私は彼をこう称える。素晴らしい演奏家であり、芸術家だ リカルド・ムーティ

天賦の才とカリスマ性を持った音楽家である パーヴォ・ヤルヴィ

ホルンのソリストとして、世界的に活躍している音楽家の一人。NHK交響楽団首席奏者として、オーケストラ界にも貢献した。第77回日本音楽コンクールホルン部門第1位受賞。ソリストとして、パドヴァ・ヴェネツィア管弦

楽団、NHK交響楽団、京都市交響楽団、日本フィルハーモニー交響楽団、東京フィルハーモニー交響楽団、大阪交響楽団、広島交響楽団、九州交響楽団他と共演している。国内外の重要な指揮者の信頼も篤く、ファビオ・ルイーダ、クリストフ・エッセンバッハをはじめ、故ピエロフラヴェクなどの絶賛を受けている。ロンドンのウイグモアホールをはじめ、ロサンゼルスやブラジル、北京などでリサイタルをするなど、世界各地から数多く招かれており、「la Biennale di Venezia」「ラ・フォル・ジュルネ・オ・ジャポン」「東京・春・音楽祭」などをはじめとする音楽祭にもソリストとして多数出演。その演奏は多くの作曲家にインスピレーションを与え、福川伸陽のために書かれた作品は、久石譲「The Border」、藤倉大「ホルン協奏曲第2番」「ゆらゆら」「ぼよぼよ」「ざざざ」「はらはら」、吉松隆「Spiral Bird Suite」、田中カレン「魔法にかけられた森」、川島素晴「Rhapsody in Horn」、酒井健治「In a blink」「告別」、鈴木優人「世界ノ雛型」「モーツァルトアーナ」「Romantissimo」、狭間美帆「Letter from Saturn」「源平音楽絵巻」など数十曲に及ぶ。室内楽奏者としては、ライナー・キュッヒル(ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団コンサートマスター)、ハインツ・ホリガー(オーボエ奏者、作曲家)などと共演しているほか、日本人ソリスト達で構成される木管アンサンブル「東京六人組」やトッププレイヤー達が集結した「ARK BRASS」などで積極的な活動を展開。ペリオド楽器での演奏にも力を注ぎ、バロックホルンやナチュラルホルンの演奏者として、バッハ・コレギウム・ジャパンを中心に、室内楽や録音においても欠かせない奏者の一人となっている。リサイタルや室内楽、協奏曲の演奏は、NHK、テレビ朝日、フジテレビをはじめ、ドイツ、イタリアなどでも放送された。キングレコードより4枚のソロCD、モーツァルトのホルン協奏曲全集、リヒャルト・シュトラウスのホルン作品集をリリースし、音楽之友社刊「レコード芸術」誌上にて特選版に選ばれている。国際ホルン協会評議員、東京音楽大学准教授。客員教授として、洗足学園音楽大学、大阪音楽大学、エリザベト音楽大学で後進の育成にも力を注いでいる。



©Naoya Yamaguchi

高木凜々子 ヴァイオリン

東京藝術大学在学中にブダペスト(ハンガリー)で行われたバルトーク国際コンクールで第2位及び特別賞を受賞し国内外から注目を浴びる。その他シュロモ・ミンツ国際コンクール第3位、東京音楽コンクール第2位及び聴衆賞、日本音楽コンクール第3位及びE・ナカミチ賞など数々のコンクールで入賞。読売日本交響楽団をはじめ、国内の主要オーケストラと数々の協奏曲を共演。また、ハンガリー国立交響楽団セグドをはじめ、海外のオーケストラとも数々の協奏曲で共演。国内外各地でリサイタルを開催し、構成力や曲の解釈、美しい音色に高い評価を得ている。テレビ、ラジオなどのメディアへの出演も多く、YouTubeでは600本を超える演奏動画配信など、様々な演奏活動を積極的に行っている。また、パシフィックフィルハーモニア東京のソロ活動や室内楽活動も行っている。3歳からヴァイオリンを始める。これまでに星はるみ、篠崎功子、清水高師各氏に師事。2010年度ヤマハ音楽奨学生。2018年度2021年度ローム音楽奨学生。東京藝術大学を卒業。2020年CD「凜々子プリランテ」をリリース。2022年には公式盤としての初CD「リリコ・カンタービレ」をリリース。2023年ミニアルバム「シャコンヌ&ロマンス」をリリース。2024年9月には、「パッハ無伴奏ソナタ&バルティータ全曲集」を国内最年少でリリース。発売前から既に大きな注目を集めた。使用する楽器は(株)黒澤楽器店より貸与のストラディバリウス「Lord Borwick(1702年)」
公式ウェブサイト
<https://www.ririkotakagi.com/>



©Junichiro Matsuo

小塩真愛 ピアノ

東京藝術大学卒業、同大学院修了。卒業時に皇居内桃華楽堂にて御前演奏。ザルツブルク・モーツァルテウム音楽大学修士課程、同大学ポストグラデュエイト課程修了。ピティナ・ピアノコンペティション全国決勝大会において、C級銀賞、E級金賞、G級銅賞、特級銀賞及び聴衆賞受賞。第3回福田靖子賞選考会において奨励賞受賞。2025年第1回びわ湖ピアノコンクールにて1位受賞。2007年ヴァルセリア国際コンクールJr.D部門2位受賞。2015年マウロ・パオロ・モノポリ国際コンクール2位受賞。2019年アミグダラ国際ピアノコンクール1位受賞。2020年フィオレンティーノ国際コンクール1位受賞。藝大フィルハーモニア管弦楽団、東京シティ・フィルハーモニック管弦楽団、ドナウ交響楽団、プーリアフィラル・モニカルなど、ソリストとしてオーケストラと共演する他、多数のリサイタルや演奏会に出演。2021年6月にKNS Classicalより初のアルバム「Lumière」をリリース(Spotify、Amazon music、iTunes等、デジタル配信にて視聴可能)。これまでに、二本柳奈津子、岡原慎也、黒田亜樹、椋木裕子、赤松林太郎、青柳晋、ジャック・ルヴィエの各氏に師事。現在、東京藝術大学音楽学部附属音楽高等学校、大阪音楽大学非常勤講師。一般社団法人全日本ピアノ指導者協会(PTNA)正会員。
公式X
<https://mobile.twitter.com/KoShioMai>



最寄駅

- 四ツ谷駅 麴町口・赤坂口(JR線・丸ノ内線・南北線) 徒歩6分
- 麴町駅 2番出口(有楽町線) 徒歩8分
- 赤坂見附駅 D出口(銀座線・丸ノ内線) 徒歩8分
- 永田町駅 7番出口(半蔵門線・有楽町線) 徒歩8分